もっと社会人野球

創部4年目、王者に肉薄　大福ロジスティクスの「甘くない」存在感

下河辺果歩　スポーツ　速報　野球

毎日新聞　2023/4/20 08:40（最終更新 4/20 08:40）　1178文字

大福ロジスティクスは最年長が25歳の若いチーム。試合中もベンチにはつらつとした雰囲気が漂う＝松山市のマドンナスタジアムで2023年4月10日午後1時6分、下河辺果歩撮影

社会人野球のJABA四国大会で、熊本県を拠点とする大福ロジスティクスが存在感を示した。初参加が簡単に1勝できるほど「甘くない」JABA大会で予選リーグ2連勝とすると、昨夏の都市対抗野球大会を制した王者・ENEOSを追い詰めたのだ。

「全国のトップチームに自分たちの力がどれくらい通じるか、目安になる大会と思って臨んだ。自分の中では最低1勝はできればと思っていた」

そう話す藤本浩二監督。ところが、本人も周囲も驚く快進撃を見せた。

大福ロジスティクスは2020年、物流会社「大福物流」が魅力ある会社や業界づくり、社員満足度の向上を目指して設立した。創部4年目でJABA大会は今回が初参加。社会人野球の2大大会である都市対抗と日本選手権への出場経験もない。

予選リーグ初戦で、都市対抗優勝経験もある古豪・NTT西日本に3―2で競り勝つと、続く2戦目もJR四国に6―1で勝利。2大大会の常連チームを次々と撃破すると、決勝トーナメント進出を懸け、予選リーグ最終戦でENEOSと対峙（たいじ）した。

先発は福岡大から新加入した右腕・西山大成投手。藤本監督が「制球や球速はチームで一番まとまりがある」と、大一番の先発に抜てきした。その期待に応えるように、最速149キロの直球とカットボールを軸に、七回途中2失点と力投した。

JABA四国大会のENEOS戦に先発し、七回途中2失点と好投した大福ロジスティクスの西山大成投手＝松山市のマドンナスタジアムで2023年4月10日午後0時58分、下河辺果歩撮影

攻撃では互いに無得点の四回に松永崇弘選手の適時打で先制点を挙げ、王者に肉薄した。終盤に逆転を許して1―3で敗れたものの、ENEOSの大久保秀昭監督を「相手の投手が若くて勢いがあった。準備をしていてもこういう展開になった」とうならせた。

大福ロジスティクスの選手たちは普段、トラックの運転手や倉庫内での仕分け作業、グループ会社で老人ホームの職員として仕事をしながら練習に取り組んでいる。

老人ホームで利用者の食事の補助などを担当する加藤佳大主将は「（利用者は）野球の結果を『どうだった？』と聞いてくれる。今回の結果も報告したい」と笑顔を見せる。入社したばかりの西山投手も「野球だけにならず、仕事も野球もしっかりやっていきたい」と話す。

「投手を中心に守備からリズムを作り、ロースコアの展開に持ち込むことができた」と加藤主将が語るように、初のJABA大会で全国のチームと渡り合える自信をつけた。その一方で、新たな課題も見つかった。

藤本監督は「（ENEOS戦で）1点取った後、1アウト満塁で追加点を取れないのが痛かった。（守備で）ボールに追いついても取れないことがあり、そういう執念がまだ足らんのかなと思う。西山もよく投げて、悔し涙を流していた。次はやってくれるでしょう」と語る。

最年長が25歳の若いチームで、伸びしろもたっぷり。勢いづくと止まらない雰囲気もある。都市対抗予選や5月上旬のJABA九州大会での上位進出に期待したい。【下河辺果歩】

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。
画像データは（株）フォーカスシステムズの電子透かし「acuagraphy」により著作権情報を確認できるようになっています。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.